

KOSHIRAE ~ 拵 ~

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 令和3年3月20日(土)~
5月18日(火)
- 休館日 4月12日、5月6日・7日

武士が刀を身につける際には、必ず「拵」、つまり柄や鞘その他の刀の装具一式をととのえたものを用意しました。常に身につけるものですから、特に大名や身分の高い武士は、自分の好みや教養を表わすものとして、拵の各部分の意匠やその構成にこだわるが多かったようです。一方、儀礼に参加する際には、身につけるべき服装の一部として、拵の形式も幕府によって細かく定められていました。

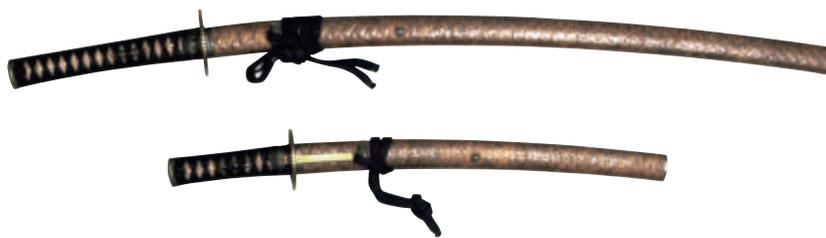
拵を構成する金具や組紐、柄や鞘は、金工・木工・漆工・染織など工芸の各分野の技によってなっており、上質な拵はその時代の工芸の粋を集めたものとして極めて貴重なものといえます。

今回はそのような「拵」の美を、打刀拵・太刀拵・短刀拵など形式ごとに分けて、越前松平家伝来の作品を中心に紹介していきます。

打刀の拵

多くの方が「かたな」といえばまずはじめに思い浮かぶ形状がこの打刀でしょう。室町時代頃から用いられるようになった、やや反りがついた(1~2cm)、刃長65cm前後の刀です。時代劇で見るように、江戸時代の武士は「大小」といって「大」の打刀と「小」の脇指をセットで帯に差して身につけるようになりました。日常的に身につけることが多いので、拵のデザインに自分のセンスを反映させるべく、鞘の塗りや使用する金具の意匠に工夫を凝らしたものが多く見られます。また野外などでの活動に適した実用的な造りのものも見られます。

さらに冠婚葬祭その他の儀式で身につける際のフォーマルな形式も、服装とともに定められました。



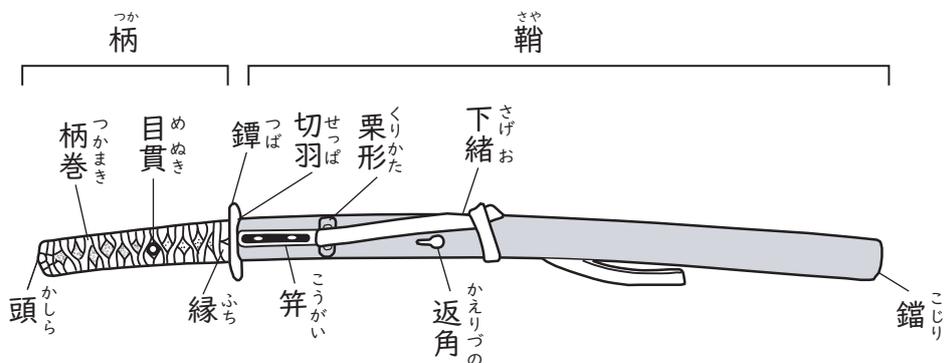
【鯉鱗包大小拵】
(福井市春嶽公記念文庫)

福井藩16代藩主松平春嶽愛用の拵の一つ。

鞘に鯉の鱗を一枚一枚張り付けて金泥と透明漆をかけた華やかな拵。

打刀拵

うちがたなごしらえ



【筭】本来は鬘(まげ)を整えたり耳垢を落としたりなど身だしなみを整えるための道具。拵の見どころとして金工の技が凝らされている。



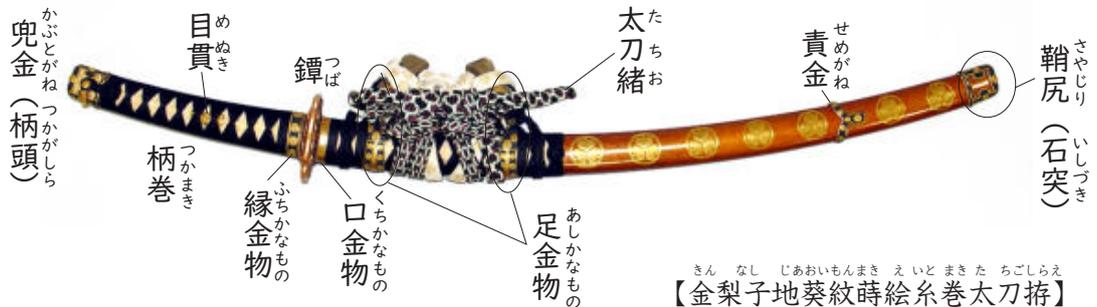
※縁と頭はセットでデザインを統一して作られることが多いので、あわせて「縁頭」と呼ぶことが多いです。

太刀の拵

平安時代後期、日本刀が誕生した古い時期の刀の姿です。打刀よりも反りが強く刃長も長い大型のものが多く、身につける方法も「大小」のように帯に差すのではなく、刃を下にして足金物で腰帯から掲げる形になります。江戸時代には本式の太刀拵は日常使われることはなく、江戸城登城の際に従者に持たせたり、調度として飾ったりという場面で使用されました。今では大相撲での横綱の土俵入りの際、太刀持ちの力士が掲げているのを見ることができま

太刀拵

たちごしらえ



【金梨子地葵紋蒔絵糸巻太刀拵】
(越葵文庫)

脇指の拵

打刀とともに大小拵としてセットで作られていることの多い脇指の拵ですが、「小さ刀」といって脇指のみの正式な拵もあります。

また七五三を迎えた男児のための刀は「稚児指」と呼ばれ、細身で小型の刀身と、これに合わせた華奢な拵が作られており、越前松平家にも伝わっています。いわば幼児用の打刀ですが、ここでは脇指の一種としてご紹介します。

小さ刀拵

ちいさがたなごしらえ

脇指の拵は鐺（鞘の先端）が丸くなり、鞘の裏側に小柄のみ付属する事が多いが、これは「小さ刀」といって、三所物（みどころもの）（目貫・小柄・筭のセット）が付属した、切鐺（鞘の端部が角ばっている）の脇指の拵。



【蠟色塗小さ刀拵（分解した状態）】
(越葵文庫)

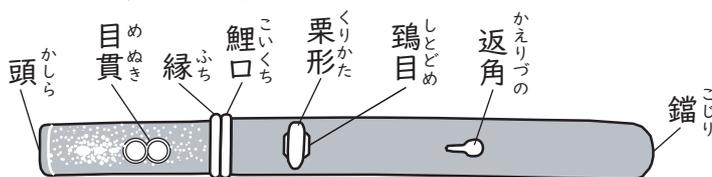
松平春嶽が明治時代になって江戸時代の幕府でのしきたりなどを記した『幕儀参考（ばくぎさんこう）』によると、直垂（ひたたれ）姿や、袴（かみしも）姿など、かしくまった儀礼の際の服装には、腰には小さ刀のみを差すのが決まりであった。

短刀の拵

刃の長さが1尺（30.3 cm）未満の刀を短刀と呼んでいます。懐など体に密着して身につけるため、鐺がない「合口拵（あいくちごしらえ）」に納められることが多く、江戸時代より前には「腰刀」「馬手指」などとも呼ばれて戦場では近接戦闘に用いられました。江戸時代には儀礼や贈答、また「懐刀」「御守刀」として男性のみならず女性や子どもの護身用としても用いられました。

合口造短刀拵

あいくちづくりたんとごしらえ



【花梨魚尽短刀拵】
(福井市春嶽公記念文庫)

幕末の福井藩重臣・中根雪江が福井の彫刻家・島雪齋に作らせた、こだわりの一品。釣りが趣味の中根の好みを反映して、頭には船縁にとまるトンボ、合口部は縄、栗形は桶、鞘には沈船をねぐらにする蛸、その蛸に捕らえられた魚、驚いて逃げ出したエイなどが彫刻されている。方位磁石が鞘にはめ込まれているのも面白い。

次回の展示

企画展

心を燃やした15日間
～東京1964～

5月22日（土）～8月1日（日）

展示解説シート No.140 令和3年3月20日発行
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489
担当：松村知也 印刷/宮本印刷